

「自ら課題を見付け、友達と協働して解決していこうとする児童の育成」

—めあてを達成するための適切な話型を活用して授業改善を図る—

中学年分科会

1 研究主題にせまるために

2年生の算数の学習では、かけ算の性質やきまりに着目し、答えの求め方を考えたりかけ算九九を覚えたりする活動を行い、身に付けてきた。

今回、学習する2位数や3位数に1位数をかけるかけ算の仕方について、3年生の1学期までに身に付けたかけ算九九などの基本的な計算を基にして自己解決を図り、立式から答えまでを導き出せるようにしていく。計算の過程、特に筆算の仕組みや順序などを児童自身が友達に説明する活動を通して、理解を深められるようにしていく。そのために、単元の初めから、昨年度まで校内で検討してきた話型カードを意図的に繰り返し活用する。その話型カードを基にして、児童が自身の考えを補いながら説明し、対話的な学習活動に取り組めるようにしていく。

このような学習活動を積み重ねることで、研究主題である「友だちと協働して解決していこうとする児童の育成」につながると考えた。

2 目指す児童像

○友達に分かりやすく伝えたり、友達の考えを受け止めたりして、学びを深め合う子

○学んだことを日常の生活や他教科に活用しようとする子

3 授業の視点及び手立て

視点1 主体的・対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備・言語活動の充実

○全体に説明・共有する場面で、自分の考えを筋道立てて相手に伝えることができたか。

(そのための手立て)

- ・「まず」「次に」「最後に」などの説明の順序を示すカードや、「△△をもとに説明すると～」などの説明の仕方を促すカードを、タブレット端末内に入れておき児童がいつでも見られるようにして、筆算の仕方を説明できるようにする。
- ・前時までに2位数×1位数の筆算の順序の仕方の説明の仕方に慣れる。

視点2 協働的な学びの充実に向けた学習活動の工夫

○場面に合った話型を提示することで児童間の対話が広がったか。

(そのための手立て)

- ・個別に考えをもつために時間を十分に確保し、用意した話型カードやヒントカードを提示する。
- ・個別に考えた自分なりのやり方をペアで伝え合い、その後全体で共有する。

視点3 情報機器 (ICT) の効果的な利活用

○一人一台のタブレット端末パソコンや、教室内のICT機器の利活用を通して、学習活動を充実させることができたか。

(そのための手立て)

- ・多様な考え方に触れることができるようにする。そのために、自分の考えを双方向授業支援アプリ (ロイロノート) で提出させ、児童間で共有することによって、筆算の仕方を説明することができるようにする。
- ・話型カードを双方向授業支援アプリ (ロイロノート) の資料箱に入れて、児童が参照しやすいように整える。